

JAXA の深津氏が資料 5-1-1(質問と回答)の改訂部分を説明した後、短い質疑応答があった。

森尾:34 ページ(質問番号 15 の添付図)の図であるが、一部故障が生じた場合に、その故障部分を分離する実験はされているのか。

JAXA 深津:HTV 全体の機能試験において、故障検知機能の確認をしている。

森尾:試験だけではなく、其れが起こった場合に故障部分を切り離して、バックアップをするということの確認である。

JAXA 深津:「検知」と云うのは、我々は故障検知、リカバリーという一連のものとして考えている。異常個所を検知し、片系に切り替わって立ち上がるまで確認している。

森尾:此処ではヒューズを使っているから、ヒューズを切ることも確認しているのか。

JAXA 深津:実際にフライトするものについてヒューズを切るとは、壊してしまうことになるので、そうではなく、その系統に異常があったことを想定した機能的な試験を行い、壊れたという仮定の下に切り替わって動き出すことを確認する試験を行っている。実際にヒューズを切るとはしていない。

森尾:今の、ETS- の故障は、切れる筈のヒューズが切れないということであるが<sup>1</sup>、地上で試験して切ってしまうと、フライ

---

<sup>1</sup> どうせ質問するのであれば、「ETS- と何処が違うのか。」と聞いた方が効果的であろう。

ト品に新しいヒューズを使えばいいのではないか。

JAXA 虎野:先ず、実際のフライト品のヒューズを切るということは、ヒューズの下流や上流の機器をショートさせなければならず、フライと品をそのような状態にするのはいけない。やっってしまうと、その機器も交換しなければならない。あくまでも、コンポーネントレベルでフライト品ではない機器を使った過電流状態、(割り込まれる)

森尾:コンポーネントレベルで結構である。

JAXA 虎野:其れで宜しいのですか<sup>2</sup>。そういう意味では、ご指摘のような試験を行っている。実際のフライト品をアセンブリーした状態ではそのような試験を行わない。

池上:この 33 ページの絵だと、各機器への電源供給の部分がショートしてもバックアップできるようになっていますねということ。其れは、フライト品ではなく、確認はしているのだな。

JAXA 虎野:試験の中でやっている。フライト品ではやりません。

---

<sup>2</sup> 専門外の人に対する回答、専門家に対する回答、全くの素人に向けた回答、等々を使い分けるのは大変であるが、JAXA には其れも要求されるのであろう。

しかも、森尾委員は電気・電子会社の出身で、質問内容からエンド・トゥ・エンド試験について聞いている雰囲気があった。ところが、非破壊検査の常識回答で済んでしまった。